



花さき山

タイトル文字: 滝平二郎



フックスタートクラブ

～毎週水曜日は視聴覚室開放 day♪～

☆幼児向けおはなし会

4月 5日、12日、26日⇒10:00～

4月 19日 ⇒11:00～

4月のおはなし会

・4月1日(土)
時間→11:00～11:30

・4月16日(日)
時間→11:00～11:30

音読会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 4月4日(火)

11:00～12:00

気軽に発声練習してみませんか?

もちろんお子さんも参加できます☆

4月、5月のテーマは、『唱歌』!

4月はこども向け映画会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 4月22日(土) 10:30～

内容: ・「森は生きている」(上映時間: 49分)

・紙芝居の読み聞かせ

4月は映画と紙芝居のおはなし会が両方楽しめます☆お申込不要です。無料でご覧いただけます。

ぬいぐるみハント

場所: 明野図書館

対象: 0歳～12歳の

図書館利用カードを持っている方

期間: 3月28日(火)～4月16日(日)

受付: 明野図書館 カウンター

(9:00～17:00)

☆明野図書館のどこかに隠れたぬいぐるみ達を見つけ出そう! 全問正解するとプレゼントがもらえるよ☆



こどもの読書週間イベント

場所: 明野図書館

期間: 4月18日(火)～5月14日(日)

対象: 0歳～12歳

受付: 明野図書館 カウンター

今年もスタンプカードと絵本クイズを開催!

プレゼントを目指してチャレンジ☆

壁紙コ

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 4月30日(日) 11:00～12:00

一緒に折り紙を楽しもう!

申込み不要・無料です。

平成29年度 ボランティア募集

受付期間: 3月1日(水)～4月29日(土)

活動内容はポスター・ちらしをご覧ください。

説明会

4月28日(金)または4月29日(土)

11:00～12:00

※お申込いただいた方は必ずどちらかの説明会にご参加いただけます。

《LE(～ライブラリーエンジンョイクラブ～)》

場所: 明野図書館 視聴覚室

4月から毎週金曜日 13:00～17:00は、

一般向けに視聴覚室を開放!

音楽を聞きながら読書を楽しむひとときを☆

《4月の特集コーナー》

場所: 明野図書館 カウンター前「特集コーナー」

テーマ「はじまりの本」! どんな本が並ぶかな?



真実を求め現地を歩く

- 加波山事件研究一筋3年の歩みを発刊 -

白石 誠

「自由民権加波山事件研究会」平成29年は『会報集成10号記念』（1月1日発行）を250部作成し、図書館への進呈、関係者への販売と忙しい日々スタートとなりました。

この一月はまさに多くの関係者と生きた交流ができ、活動の前進が図られました。

『郡内地方の自由民権運動』（佐藤弘著）山梨の佐藤先生から本書が寄贈され、交流が盛んになりました。

その他には、自由民権家が会合の度に集まったといわれる、自由亭・大巴楼・新巴楼などがどこにあるのか調べていた矢先、しもだて地域交流センター長の提供により、『下館町全図』（昭和7年発行の複製）が手に入り、この全図で新巴楼を発見でき、史跡めぐりの助けとなりました。

さらに、昨年4月の史跡めぐりで訪ねた『仙波兵庫』のご遺族仙波隆綱氏に『会報記念』と『國士仙波兵庫翁を憶ふ』（編集 島田昌志）を持参し交流する中で、『加波山事件研究ノート』を頂きました。これは、加波山事件70年を記念して早大教育学部歴史学研究会が、調査研究し、まとめたノートで、大変貴重なものです。内容は、「加波山事件70年祭」（1954年9月23日実施）に集まった一万数千の農民たちの真剣な目は一体何を物語っているのだろう・・・と感激して加波山事件研究会を大学生が立ち上げスタートしたとあります。頂いた『研究ノート』の中で、私は加波山事件口述資料（第一次・第二次調査）という項目に興味を持ちました。

中村清太郎（秀太郎は父）、袖山藤三郎、勝田盛一郎、仙波兵庫各氏の名前が続き、加波山事件の関係者から聞き取った話が事細かに記述されており、あっと驚く事、知らないことの実情を教えられました。

特に、鈴木門弥（86歳）談です。「・・・彼ら16人の旗上げには300人位の百姓も参加する予定になっていた。その300人の百姓達は加波山の付近の人で、当時すでに地租は、金納となっており、米の暴落によって、地主などは大変困っていた。だからタダで小作をやらせたこともある。それで地主らは地租を安くしてもらうために彼ら16人たちと共に旗上げしようと思い、彼らを待っていた。所が事件がああいうことに、すなわち町屋分署など襲撃しなければ共に行動することが出来たのであろうという評判であった。要するに警察の手回しがよかったので百姓達も散ってしまった」と記されており、私にとっては新たな発見です。

私たち研究会も活動を開始して以来、史跡めぐりとして、関係者の遺族、関係地の特定と毎月計画を立てて訪ね歩いて、調査をし続けています。会報集成10号記念には、その取り組み過程を網羅しています。参考にして頂き、これからの活動にご支援を頂ければ幸いです。130年という歴史の経過が、史実をたどるのを難しくしていますが、それを追求するのが研究会の務めと考え、調査・研究を続けたいと思います。

（しらいし まこと／自由民権加波山事件研究会 事務局長）